

子育ては「口育」から

げんかい歯科医院 元開富士雄

子育てや保育の目標は、子どもたちの生活自立を獲得させることにあります。小学校に入るまでの6年間をかけて、子どもに自分の体の世話ができるようにすることで集団の中で生活ができるようになり、それが知的学習の準備になります。その基盤になるのが「基本的生活習慣の獲得」です。基本的生活習慣は、食事・睡眠・排泄・着衣着脱そして清潔の5つからなります。この5つは、ヒトが生物的に生命を維持するための基盤となる食事・睡眠・排泄に人間として社会生活する上で必要な着衣着脱と清潔が加えられたものですが、ヒトが人間に成長するに従って食事や睡眠や排泄にも社会的な意味が強くなります。このように、ヒトは生命を維持するための基本的な機能を獲得するだけでなく、成長するにしたがって周囲との調和をとりながら社会生活をおくる生活機能を獲得して自立に向かうのです。

口の発達、そうしたヒトから人間への発達そのものといえます。赤ちゃんの時は生命維持のためにお腹いっぱいになるまでひたすらオッパイを飲み続け、次に食物を捕まえる練習や口の中で嘔む練習をしているうちは介助付きの一人食です。こうしたなかで食物を正しく認識し異物を取り除くことで安全な食を学習します。そして、一人で食事ができるようになってはじめて家族や仲間と共食ができたといえます。一人で食べられる自由で器用な口は、言葉を正確にしゃべることが可能になり表情も自由に作れるようになります。また、口は信頼関係の基盤となります。口はからだの中でもっとも感覚刺激を受けとる場所です。口を通じた感覚情報は、母子の信頼関係を築くうえで大切です。何故ヒトはいつまでもオッパイに固執するのでしょうか？それは、口や体の離乳準備が完了しても口を通して母親との信頼を持つために時間が必要だからです。乳離れに時間がかかる子ほど不安や恐怖を持ちやすく周りの環境に適応しにくいことを知って下さい。心配でいつまでも母親にまわりつく子どもの気持を考えて下さい。

最近、乳幼児の虐待や暴力が社会的な問題となっています。すべては親が問題であるようにいわれますが子育てはいつも「相互関係」の中で行われます。子どもの「育つ力」と親の「育てる力」は、いつも互いの関係の中で作られます。親だから決して強いわけではありません。信頼獲得に時間がかかり、環境に適応しにくい「育てにくい子ども」を持った親にとって子育ては、苦悩の連続となるでしょう。そうした子どもには、忍耐強く「口」を中心とした身体の過敏さを取り除くためのマッサージが有効です。それに加え優しい言葉掛けをして下さい。こうした過敏で不安な子どもは、いつも母親のことを見えています。いつも自分のことを思っていてほしいと願っています。だから、照れずにそれを伝えて下さい。こうしたことが子どもを安心させ良好な母子関係が確立されます。さらには、友達との関係を安心して形成することになります。

「口を育てる」ことは、赤ちゃんの口から大人の口への転換を意味します。過敏で狭くて機能を持たない口を寛容でいろいろなものを味わい伸縮性があり伸びやかで食べることもしゃべることも自由自在な口をもつことで生活機能は獲得されます。そして、そうした口にある歯はなにを食べても汚れにくくムシ歯になりにくだけでなく、口の広がりにもない美しい歯並びとしっかりした噛み合せをもたらします。

子どもの口をしっかり育てることが「自立」への第一歩です。どうか子どもたちの口をしっかり育てて下さい。

昭和57年 日本大学歯学部卒
同 年 日本大学歯学部 小児歯科学教室入局
平成3年 横浜市青葉区にて「げんかい歯科医院」開院
平成20年 NPO 法人口腔健康推進協会サークルアイ 副理事長

平成16年 乳幼児健診マニュアル作成 (横浜市青葉区)
平成17年 横浜市医療功労者表彰
平成18年 神奈川県歯科保健賞 受章
平成18年 乳幼児健診Q&A 作成 (横浜市青葉区)
平成19年 日本看護学会 シンポジスト
教育新聞 「保護者と向き合う」掲載
平成20年 小児看護 特集号 掲載
平成21年 茨城キリスト教大学看護学部紀要

平成19年より 川崎市公立保育園保育士会研修会講師

平成20年より 横浜市保育士講習会講師

現在研究中のテーマ

- 1) 『離乳前後の乳幼児及び家族の口腔腸内、皮膚常在菌のメタゲノム及び16s-RNA 遺伝子解析による家族の細菌類似性に関する研究』
- 2) 「腎障害患者の口腔機能との関連性 呼吸様式を中心とした」
- 3) 「乳幼児の口腔発達と母子の信頼関係および乳幼児の行動発達との関連性」

以上